

# 今村法律研究室シンポジウム報告

弁護士 清水俊佑

## 1 はじめに

令和4年12月10日(土)に今村法律研究室シンポジウム「法曹の仕事って?～司法試験に合格した本学OB・OGから仕事の魅力を聞いてみよう～」が開催されました。法曹(裁判官・検察官・弁護士)に対する憧れや興味を持っている学生が法曹と接する機会を作るだけでなく、法曹を将来の1つの選択肢として考えるきっかけとしてもらうため広く将来の道を探っている学生に法曹の魅力を伝えることも目的としました。講演者3名は、本学法学部から本学法科大学院を経て司法試験に合格した、参加学生たちの先輩にあたる方たちであり、その職種も、司法修習生、検察官、弁護士と多彩であることから、本学学生の進路決定、モチベーション向上に資するものとなったと思います。

## 2 講演

本シンポジウムは、講演と質疑の2つのセッションに分けて行われ、岡田好史今村研究室長による開会宣言に続き、竹内香葉子氏、大竹綾佳氏、中山祐孝氏(以下、講演者の敬称は省略させていただきます)の順に講演がされました。講演内容としては、各講演者の自己紹介、法曹を志望した理由、どのように勉強をして司法試験に合格したのか、現在の仕事などに言及されました。以下、各講演者の講演内容の要旨のみ報告させていただきます。

## 自己紹介

約1週間前に司法修習生に採用された。法学部在籍時には法曹を目指していなかったが、法律関係の仕事には携わっていきたくったことから、卒業後は法律事務所の事務員として勤務した。事務員として、3年間、一般民事事件(交通事故, 不貞, 債務整理など)において、身近に依頼者に接し、ありがとうと言ってもらえることや困った人を助けることができるのをみた経験から、弁護士を目指して法科大学院進学を決めた。



竹内香葉子

(司法修習生・令和3年度本学法科大学院修了・令和4年司法試験合格)

## 合格までの学習

本学ではGPAが良い学生ほど合格率が高いことから、授業にしっかりと取り組むことで司法試験に合格することができると考え、任意の課題についても積極的に添削をうけるなど授業にまじめに取り組んだ。課外の支援プログラム(修了生の弁護士による授業のフォローアップ)やエクステンションセンターの講座が、週に3回、4回あることもあったが、たとえ相性が悪い講師であっても出ないよりも出た方が学習効率がいいと考え、すべてに参加をした。納得のいかない起案については、すべて添削を受け、書き直しを行い、再度添削を受けることで、司法試験に対応できる力をつけた。もう一度起案をしてみると自分が本当に理解をしているかを確認できる。学習をしたものはすべて記録に残して、学習の進捗などを確認・管理できるようにし、モチベーションにもつなげた。

学部段階からできることとして、授業に出席する、メモを取るなどのあたり前のことをあたり前にやることを習慣づけることが重要である。



### 大竹 綾佳

(検察官・平成30年度本学法科大学院修了・令和3年司法試験合格)

### 自己紹介

一昨日(令和4年12月8日)に検事に任検したばかり。検事を目指したのは、中学3年生のときに、刑事裁判を見学し、女性検事がかっこよかったことがきっかけ。大学3年生のときには就職をしようと思っていたが、法科大学院の奨学生制度を知り、学部3年生の3月に法科大学院進学を決める。

法科大学院では、予習、復習にいっぱいになり、また、自分が司法試験に受かるとは思っていなかったこともあり、最終年次の時に未修了となった。

直後の司法試験で、修了した同級生が合格し、自分が情けなく思ったことが、司法試験に合格しようと本気で思うきっかけとなった。

司法試験合格後も検事になるのは難しいかと思っただが、検察修習がすごく楽しく、やはり検事になりたいと思い直した。

### 合格までの学習

学部的时候は、エクステンションセンターの講座を受けていただけであり、学部在学中にちゃんと勉強しておくべきだったと思った。大学生のうちにできる経験は法曹になった後も生きるもので、勉強だけでなく他のこともたくさん経験してほしい。学部生のときに司法試験の受験情報を持っていなかったが、Twitterで予備校や予備校講師をフォローするだけでも情報は入ってくるので、フォローしておくのがよいと思う。

法律の勉強としては、基本書の前に入門書を読み、全体像をしっかりと把握するとよい。司法試験の対策としては、司法試験の過去問、予備校を活用した。

受かろうとちゃんと頑張ってきちんと正しい方向で勉強をすれば、専修大学出身でも十分に受かるので、興味とか憧れがあり、なんとなくでも法曹になりたいと考えているのであれば、法科大学院に進学して勉強してみるのもいいと思う。

## 検察修習 (仕事の話に代えて)

任検して、2日のため、実際の仕事の話はできないので、検察修習について話をします。検察修習では、指導検事のもと被疑者の取り調べや捜査をする。被疑者の取り調べやその他の証拠に基づき、足りないと思われる捜査を警察に依頼する。それによって自分の指示で新しい証拠、事実などを発見されるのがすごく楽しかった。

## 自己紹介

附属高校出身で本学法学部、本学法科大学院と進学し司法試験に合格した6年目の弁護士。法曹を目指したきっかけは大学3年生の冬にサラリーマンになりたくないと思ってしまったこと。法学部にいるのだから、司法試験を目指したいなど不意に思い立ち勉強を始めた。そのときからちゃんと勉強を始めた。経済的な理由で既修に入りたかったので、猛勉強をした。勉強の内容は、法科大学院進学を志望していた他の学生と一緒に自主ゼミを組み、ひたすら問題を解いた。1日1通から2通ぐらいの答案を書いて、他には、自習で基本書や判例百選を読んだりした。

本学法科大学院に合格しほっとして燃え尽きてしまい、勉強をしたくないと思ってしまい、法科大学院入学まで、まったく勉強をせずにアルバイト生活をするので知識が抜け落ちた。

## 合格までの学習

法科大学院に入って改めて勉強を始めたけれども、一度付いた怠け癖がなかなか取れず、真ん中ぐらいの成績となり、良い点数が取れないことが続いた。そうすると、モチベーションが下がって、最初の司法試験で短答式試験に落ちて心が完全に折れてしまった。翌年の司法試験は受けなかったが、友達からもう1回一緒にやってみないかと言われ、心残りがあったのでもう1度勉強を始めた。約2年間勉強していなかったので、どういふことを書けば受かるのかという司法試験の合格答案、



中山 祐孝

(弁護士・平成23年度本学法科大学院修了・平成28年司法試験合格)

出題の趣旨，採点実感の分析から始めた。しかし，基礎知識が不足していて，司法試験に2回落ちてしまった。過去問の分析だけでなく，判例を勉強しようと判例百選の読み込みを始めた。そして，短答式で高得点を取ろうと，論文式試験にも応用できる形で勉強を始めた。それがうまくはまって合格できた。

### 弁護士の仕事

債務整理という仕事。本当に困っている人，いつ死んでしまうかもわからない人たちの助けになれる仕事。お金がない人たちが依頼者となるのでお金を稼ぐことは考えないでやっている。ただ，考えていなくても多少のお金は入ってくるので，人助けができて，お金が入ってくる，最高の仕事だと思っている。人のために役に立っているところに，すごいやりがいを持っている。

最近では破産管財人もやっている。破産管財人は，破産した人の財産をお金に変えて債権者に配っていくような仕事。破産事件は，色々な問題を孕んでいるが，その問題を一つずつ解決していくことは，すごいやりがいのある仕事だと感じている。

事件の相手方には何を言われても怖くないし，こたえないけれども，信頼して任されている「依頼者に後ろから刺される」ような言動があったときは，本当に辛いときがある。弁護士はすごいストレスが多いけれども，それを超える良さがある仕事だと思っている。

## 3 質 疑

講演後，10分程度の休憩をはさみ，質疑に移りました。質疑においては，参加者の質問に対して，3名の講演者それぞれから回答をしていただきました。以下では，質問と回答の概要のみ記載することで報告とさせていただきます。

(1) 法科大学院の勉強や生活において後悔していることはなにか。

法科大学院在学中には単位修得を目標としてしまい，授業を司法試験に十分生かせなかったことや合格するという前向きなモチベーションで授業やゼミなどに参加するべきだったなどの学習への向き合い方に対する回答，司法試験合格のみをみて過ごしており，他の学生ともっとコミュニケーションを取っておけばよかったといった生活面に関する回答もあった。

(2) 司法試験や勉強では、どのような文房具を使っていたか。

司法試験では、手書きで多くの答案を書くことになるため、自分に合った手が疲れないものを使用していたとの回答とともに、回答者ごとに答案構成、起案などに使用していた文房具の紹介がされた。(※なお、司法試験は令和8年よりCBT化されパソコンによる受験方式となる予定であることを付言しておく。)

(3) 司法試験科目において苦手または嫌いな科目はあったか、またそれらをどのように克服したか。

個々に苦手な科目を取り上げ、司法試験において全員が最低限書く部分を絶対に落とさないようにする意識をもつこと、苦手な科目ほど条文の趣旨や意義を書く必要があるかの判断を確実にし、それに基づいて条文を1つひとつ丁寧にあてはめる意識を持つこと、市販教材を利用して苦手科目を克服する方法、直前期においても知識が十分でない場合にはインプットを行う時間を設けるなど学習方法について、回答がされた。

(4) 答案において、日本語がおかしいと言われる場合の克服方法

自分が考えていることが文章として他人に伝わるかが重要であることから、接続詞が正確に使えているか、主語と述語が対応しているかを常に意識しながら文章を書くこと、合格者などの他人の表現をまねることで矯正をしていくことなど文章力



シンポジウム会場

を向上させる方法、起案したものについて、時間をおいて自分で読んでみる、他人に読んでもらうことでおかしな部分がないかチェックする方法について回答がされた。

#### 4 さいごに

今年（令和5年）から司法試験在学中受験が認められ、一定の要件を充たすことで、法科大学院3年次在学中から、司法試験の受験が可能となりました。このような制度とともに、本学では、法学部を3年次で早期卒業して、本学法科大学院へ進学をすることが可能となる法科大学院進学プログラムを設置し、法科大学院の入学選抜においては、早期卒業対象のスカラシップ入試を実施しています。早期卒業制度と司法試験在学中受験を併せて活用することで、これまでよりも2年程度早く司法試験を受験することが可能となります。また、本学法科大学院のスカラシップ入試奨学生は、入学金、授業料等に加えて月額8万円（96万円）を奨学金として支給しています。このように様々な施策により、法曹志望者の時間的、経済的な負担の軽減を図っています。

本学では法曹を志望する学生の数が、多いとはいええない状況ではありますが、本シンポジウムのように本学出身の法曹と接することで法曹という職業を身近に感じてもらい、また、実際に社会に貢献している法曹の役割や魅力、先輩たちが法曹となるまでの具体的な過程などを伝えることで、法曹志望者のすそ野を少しずつ広げていく必要があります。そのためにも、今後も継続して学生が本学出身の法曹と接する機会を作っていきたいと考えております。